

【大田市】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

大田市では、学習指導要領及び中央教育審議会答申等の内容を踏まえ、児童生徒の 1 人 1 台端末の環境を最大限活用しながら、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を実現していくためにデジタル教科書や GIGA スクール端末に導入しているアプリ等を活用し、今後一層の拡大を図っていきたいと考えている。

今後は AI テクノロジーを駆使したデジタル教科書やクラウドツールの活用を拡大することにより、特に「主体的な学び」の実現に向けて加速し、これからの児童生徒がデジタル社会を生き抜くために必要とされる情報活用能力の育成を推進していく。

2. GIGAスクール構想「第 1 期」の総括

大田市は、令和 2 年度、令和 3 年度に児童生徒の 1 人 1 台端末及び通信ネットワーク基盤の整備を実施し、児童生徒の「学びの道具」として各種デジタルツールを活用できる環境を構築した。学校では、授業以外にも、児童生徒会活動や学校行事の際などに積極的に活用し、教員も児童生徒も学びのツールとして、なくてはならないものとなった。

一方で、導入後数年が経過し、機器の故障、破損やネットワーク通信帯域の不足、アクセスポイント設置位置の変更の必要性など、新たな課題が生まれている現状がある。これらについては、将来の学校統合や児童生徒数の変動、建物の老朽化などを見据え、適切に整備していくことが必要であり、今後の課題となっている。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

今後も、大田市では、学校 ICT 環境整備により導入した児童生徒の 1 人 1 台端末の有効活用を推進し、「主体的・対話的で深い学び」を一層進めていくため、市教育委員会が主催し、教職員を対象とした ICT 研修を充実させ、教員の指導力の向上を図る。また AI ドリルを学校、家庭での学習に取り入れ、児童生徒が端末を活用しながら自身の特性や理解度、進度に合った課題に取り組める環境の整備を目指す。

これらを円滑に実現していくために、引き続き、端末、電子黒板、デジタルツール等の整備、及び通信ネットワーク基盤の安定稼働を維持していくことが重要と考える。